



「未来のツルの守り手」がたくさん育ちますように



一生懸命手を振り上げてモミ撒き

平成23年度 第1回ツルの自然体験学習会

7月1日、地域の小中学生に身近な自然を守りながら、冬季に飛来するツルを愛し保護する気持ちを養ってもらおうと「ツルの自然体験学習会」を開催しました。

1時間目の講義では、ツルの生態や四万十川・中筋川流域への飛来の歴史、越冬するためのポイントなどについて説明しました。

2時間目は、国土交通省が中山地区に整備した湿地で、みんなでモミ撒きを行いました。子どもたちは畦に並び、実りの秋にツルのえさとなる



資料を見て真剣に話を聴く子どもたち



水生生物の観察



子どもたちは畦から、大人は田の中へ入って撒きました



発芽しやすいように一晩水に漬けたモミを撒きました

モミをできるだけ遠くへ撒こうと、一生懸命に手を振り上げていました。また、湿地にすむ水生生物の観察も実施。ツルのえさとなるドジョウやメダカ、ヤゴ(トンボの幼虫)などの生き物が増え、中山地区の湿地がえさ場として充実していることを紹介しました。

「ツルの自然体験学習会」は毎年夏と秋に行われる恒例の行事となっています。今回、昨年度に続いて参加してくれた子どももいました。学習を繰り返すことで「未来のツルの守り手」としての意識を高めてくれるといいですね!

講義メモ

7月1日 東中筋中学校

講師: 澤田佳長先生

(野生生物環境研究センター所長)

- ツルが四万十川・中筋川流域で初めて確認・記録されてから、今年でちょうど40年!
- ツルは毎年たくさん確認されているが、越冬に結びついていない。
 - ・稲刈後すぐに田んぼが耕されてしまい、ツルのえさとなる二番穂(一度刈り取りがすんだ株から出てくる稲)がない。
 - ・写真撮影をする人がツルに近づきすぎたり、狩猟などの影響で、ツルが落ち着いて過ごせる場所が減っている。
- 過去の資料を見ると、学習会を開催している学校付近によくツルが降りている。

理由

→ 身近な場所での取り組みが重要!!

よく似ている
ツルとサギの
見分け方も
教わりました!



ツルは飛ぶ時、頸を伸ばしているけれど、サギはS字状に曲がっているんだって!

ツルを見かけたら

お願い



四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会 事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel: 0880-34-4333 / fax: 0880-34-1451
mail: naka10@cciweb.or.jp

セブン-イレブンみどりの基金

一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団 この会報は、2011年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受け、発行しています。

四

万

十



つ

る

だ

よ

り

四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.13

●発行日/平成23年8月31日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)よりご提供いただいております。

平成23年度総会 開催!!

7月1日、中村商工会館において平成23年度総会が開催されました。

はじめに役員改選が行われ、四万十市中村地域区長会長の武田正さんが会長に就任しました。続いて、事務局より平成22年度の取り組み内容が振り返られ、その後、澤田佳長先生(野生生物環境研究センター所長)より、ツルの飛来状況等が説明されました。

23年度の事業については、セブン-イレブン



33名が参加



22年度のツルの飛来状況について説明する澤田先生

記念財団の助成や国土交通省の協力を得て各種取り組みを継続していくほか、新たに農林水産省の交付金を活用し、活動PRビデオを制作したり、「つるの里米」をブランド化するための勉強会を開催することなどが決まりました。また、国土交通省から、「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)」として中筋川流域の間地区で進められている湿地再生の取り組みの進捗状況報告もありました。

新会長よりご挨拶

このたび新しく会長を務めることになりました武田です。私は後川流域の敷地地区に住んでいます。これまで「ツルの里づくり」には直接タッチしていませんでしたが、澤田先生の講演を聞いたり、いろいろな場面で活動について見聞きするなかで、その取り組みに大変敬服いたしておりました。

「四万十つるの里づくりの会」は、子どもたちが地域の動植物に触れ、さまざまな体験を積んでいく、「子どもの健全育成」という大きな役割も担っていると思います。ツルの生態については全くの素人ですが、皆様のご協力をいただきながら、精一杯頑張っていきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。



四万十
つるの里づくりの会
会長 武田 正
です!